

事例 No.	62	人口規模	30万人以上	地域ブロック	関東	事業タイプ		拠点整備		事業主体	地方公共団体
事業名	わくわくチャレンジ広場										
実施地方公共団体名	葛飾区(東京都)										
特徴・ポイント	この事業は地域の人々が中心となって運営している。実施校ごとに自治町会、青少年育成団体、地域の代表、校長、副校長などを運営委員として委嘱し、運営委員会で活動方針や課題を話し合う。また、現場のスタッフである「児童指導サポーター」も全員が地域の人間で、各校に20～30名が登録されており、交代で子どもたちを見守っている。										
事業のねらいと内容	<p>【ねらい】 子どもたちが自由に遊び、学べるような安全な場所を提供すること、同学年だけでなく学年の異なる子どもと遊び、地域の方々と交流することにより、子どもたちの自主性や社会性、創造性を育むことを目的とする。</p> <p>【内容】 放課後や三季休業中などに、その小学校に通う子どもたちが校庭や体育館、余裕教室などで自由に遊ぶことができる。すべての学校で放課後は毎日実施しており、土曜日や三季休業中については学校によって対応が異なる。</p>										
導入・実施の背景・経緯 (事業の必要性)	少子化、いじめ、虐待、犯罪の横行、完全週5日制など、子どもを取り巻く環境が変化してきている中で、児童の放課後の安全な居場所づくりが課題となっている。					導入・実施に際して苦労した点					
事業の効果	平成14年度に4校、平成15年度に5校、平成16年度に17校、平成17年度に20校、平成18年度に3校事業を開始し、すべての小学校で実施しており、8,700人の児童が登録している。(登録率77%)					実施にあたってのネックをどのように解決したか					
事業のアピールをどのように行なったか	全戸配布の広報誌「広報かつしか」や区ホームページで活動を紹介している。					財源の確保 区の財政は、決して潤沢でなく、財源の確保が必要である。そのため、文部科学省の地域子ども教室の委託金も活用している。					
必要な協力先・実施主体とその確保策	<p>(必要な協力先) 区民</p> <p>(確保策) 現場スタッフは、実施校の近隣に住む地域の信頼のおける人材が望ましく開始時は運営委員に依頼した。開始後は運営委員だけでなく、知り合いを紹介したり、協力者は増えてきている。</p>										
概算事業費 (千円/年度)	212,224千円 <内訳> 一般会計:140,586千円 平成18年度予算 その他(雑入):71,638千円					問い合わせ先		所属部署:子育て支援部 育成課育成担当係 TEL:03-5654-8592 FAX:03-5698-1533			